

第5学年「社会」学習指導案

授業者 片山 元裕

2月17日(土) 4階B室 9:00~9:40(話し合い11:00~11:45)

1 題材名 リニア中央新幹線について考える

2 本題材を取り上げた意図と子どもたちのかかわり

リニア中央新幹線は三大都市を高速で繋ぎ利便性を向上させ、経済発展を促す JR 東海の国家的プロジェクトである。昨年8月に起きた台風による東海道新幹線の運休のような災害に対するリスク管理も期待される。一方、建設工事による自然環境への影響やトンネル発生土など懸念事項も多い。特に静岡県は水資源、生物多様性、残土の影響を懸念し、南アルプスのトンネル工事に反対している。つまり、建設を推進する JR 東海や国、懸念する沿線住民や静岡県など多様な立場が存在する社会問題である。

忘れてはならないのは我々東京都民も問題にかかわっているということだ。一見沿線地域や住民の問題のように思えるが、東京都民は利用者であり利便性を享受する。また、三大都市圏が一体化することによる経済効果も大きい。即ち、静岡県は影響を与えられ、東京都は利益を享受し影響を与える立場となる構図が浮かび上がる。私たちがこの問題を他人事として捉え、無関心であってよいのだろうか。関係ないと思われる問題を自分もかかわる問題として捉え、考えることが必要である。

多くの子どもたちにとってのリニア中央新幹線は、夢の超特急であり、自らの生活を便利にしてくれるものである。一方で、静岡県の問題は遠い社会問題であり、自分には関係のない問題だと捉える子どもも多い。また、一面的な情報や見方で判断し静岡県知事に異議を唱える子どももいる。多様な立場から検討するとともに、社会問題と〈私〉や家族友人とのかかわりに気付くことで、自分たちもかかわる社会問題として捉え、そもそもの必要性も問い直しながらリニア中央新幹線建設について考えたい。

3 学習指導計画(12時間目/全14時間)

1~3時:東海道新幹線があるなかで、リニア中央新幹線を建設することの利点について考える。

4時:静岡県知事がリニア中央新幹線の工事をなぜ認めないのか、地理的条件を踏まえ予想する。

5~6時:トンネル工事が南アルプスの自然や動植物にどのような影響を与えるのか調べる。

7時:二つのルート案の検討を通して、リニア中央新幹線に何を期待し懸念するのか考えを整理する。

8~10時:トンネル工事によって生じる残土の処理方法や近隣住民への影響について調べる。

11時:静岡県知事の立場から工事を認めるべきか否か話し合い、考えを整理する。

12~13時:〈私〉を含む多様な立場を踏まえリニア中央新幹線建設の是非について話し合う。(本時)

14時:リニア中央新幹線の建設に対する自分なりの意見を整理する。

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

これまで学習した利点や懸念点を踏まえ、〈私〉や家族友人とリニア中央新幹線とのかかわりやリニア中央新幹線の必要性について改めて考えることができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
<p>○リニア中央新幹線を誰が利用するのかという視点から、〈私〉や家族友人とリニア中央新幹線とのかかわりについて考える。 「あなたはリニアに乗りますか?どこへ行きますか?」「静岡の人はリニアに乗りますか?」「リニアがないと困るのはどんな人ですか?」</p> <p>○リニア中央新幹線の必要性を自分もかかわる問題として改めて考える。 「リニアは本当に必要だろうか?」</p> <p>・工事に賛成していたけど、絶対にリニアが必要な人っているのかな。誰のために作るのだろう。・やっぱり自分や家族が便利になるなら南アルプスの自然を守りながら建設する方法を考えたい。</p>	<p>・リニア中央新幹線と子どもや家族とのかかわり方を丁寧に聴きながら、学習をすすめていく。</p> <p>・リニア中央新幹線への子どもの考えを見取り、子どもたちが自分の正直な気持ちを踏まえながら社会問題に向き合えるよう対話をすすめていく。</p>

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

リニア中央新幹線について、自分たちもかかわる社会問題として考え話し合うことができたか。